

The Activity Report of Kanazawa University Museum in 2020

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-04-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: OKUNO, Masayuki メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00069250

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



2020（令和2）年度金沢大学資料館事業報告

The Activity Report of Kanazawa University Museum in 2020

奥野 正幸

OKUNO Masayuki

金沢大学 名誉教授

Professor Emeritus of Kanazawa University

Abstract

The university museum has held 4 exhibitions such as the permanent exhibition, special exhibitions, and an outreach exhibition from April 2020 to March 2021 and total of the visitors to university museum exhibition room was 2,518. The numbers of exhibition and visitor decreased largely from that of 2018-2019 year. Because of the exposition room closed until June 18 and the visitors were limited to only university personnel due to the infectious COVID-19 diseases control measures. However, 4 exhibitions were held successfully even under COVID-19. Especially, the special exhibition by students was well planned and designed. The workshops of the exhibition were also held. They were very interesting for visitors. An outreach memorial photo exhibition on Kanazawa university was held at Kahoku gate in Kanazawa castle park.

On the other hand, the university museum gave reference services on the archives of histories for former schools and official documents of Kanazawa University even under COVID-19.

1、はじめに

令和2（2020）年度（以後、令和2年度とする）の金沢大学資料館（以後、資料館とする）活動は、前年度末からの新型コロナウイルス感染症（以後、新型コロナとする）の拡大により厳しい1年となった。2020（令和2）年2月末に、新型コロナ対応のために資料館が閉館となり、3月末に開催予定であったコレクション展は、新型コロナの第一波が収まり5月末に全国で非常事態宣言が解除された後、ようやく6月19日に学内関係者のみに限定して開催された。その後も、資料館職員の在宅勤務などにより通常の形態での業務が難しい中、資料館展示室で前年度5回開催された企画展・特別展などの一部が中止となり、3回の開催にとどまった。また、夏休みに小中学生を対象に計画していた特別企画「考古学ワークショップ」や資料館特別講演会の開催も見送られた。その結果、令和2年度の資料館入館者は、前年度の7,250名から2,518名と大幅に減少した。そんな中、初めての試みとして、常設展の展示や展覧会のワークショップ紹介の動画を、YouTube上で広く学外に公開することができた。

他方、資料整理や公文書の受け入れ、ならびにレファレンス活動などは工夫して実施することができた。また、広報誌「資料館だより」や資料館紀要は発行することができた。

本稿では、令和2年度の資料館活動全般について、新型コロナの影響とその対応も含めて報告する。

2、令和2年度の展示活動の概要

ここでは、令和2年度に実施した展覧会及びそれに関係する活動について報告する。資料館展示室では、常設展ならびに3回の企画展を開催した。次節で述べるように、新型コロナウイルス感染症の拡大により、企画展の回数は前年度の5回から3回となり、資料館展示室での特別展、資料館特別講演会、石川四高文化記念交流館でのアウトリーチ展は中止となった。他方、金沢城公園河北門での写真展は例年通り開催することができた。

2-1 新型コロナウイルス感染症の影響と対応

展覧会等の紹介に先立って、展示活動への新型コロナの影響について簡単にふれておく。令和2年度の資料館事業、特に展覧会やワークショップなどは、2020（令和2）年2月頃からの新型コロナの拡大により、臨時休館ならびに開館後に入館を学内関係者に制限したこともあり、事業の中止やスケジュールの大幅な変更を余儀なくされた。このような状況下においても、資料館展示室では、計3回の展覧会を開催し、学外では、例年通り金沢城公園河北門での写真展を開催することができた。しかし、資料館展示室入館者数は前年度の入館者数7,250人ならび新型コロナの影響がなかった平成30年度の入館者数8,308人を大きく下回る2,518人であった。新型コロナは2022（令和4）年10月1日時点でも終息しておらず、感染症への入館規制は緩和されたが、令和3（2021）年度の入館者数は4,663人ととどまっている。また、2020（令和2）年3月に展示資料の適正な管理とバリアフリーを目指して、展示室入口ドアが自動ドアにリニューアルされたが、やはり新型コロナ感染拡大防止のため当面開放することとなった。さらに、開館に際して、資料館では入館に際してのガイドラインを設定し、館内では入館者の接触を避けるため一方通行とし、入り口に消毒液を設置するとともに、入館者にマスク着用を願うなどの感染拡大防止対策を取った。

2-2 常設展示（資料館展示室）

2-2-1 概要

常設展示は、展示資料及び配置ともにリニューアルを行い、学内の教育活動に対応しやすく来館者に配慮したレイアウトとした。令和2年度当初の主要な展示物は以下の通りである。なお、加賀藩校扁額などの大型展示物や、展示室に固定された金沢工業高等学校のシャンデリア以外の比較的小型の展示物は、入れ替えが行われる。

- ・加賀藩校扁額 「明倫堂」、「経武館」
- ・四高物理実験機器 サイレン、モールス氏電信機器、プリズムなど
- ・きのこムラージュ標本
- ・剥製標本 キツネザルなど
- ・前世紀動物模型 ブロントサウルスなど
- ・医学教示図 人体局所解剖図など
- ・金沢工業高等学校シャンデリア
- ・橋梁模型
- ・龍護寺旧藏仏像
- ・梅田日記
- ・当世具足 紺糸威二枚胴具足
- ・歴代九谷焼作風標本 五彩古九谷など
- ・四高考古資料 埴輪など
- ・大樋焼 「角のある花器」
- ・暁烏陶磁器コレクション
- ・金沢大学創設資料

2-2-2 常設展紹介動画（文献1）

前述のように、令和2年度展示会開催に合わせて常設展の展示物と配置を大きくリニューアルしたが、令和元年度末からの新型コロナの拡大による資料館の閉館が続いたため、これに対応するため、常設展の展示概要をYouTubeによる動画配信によって紹介した。動画は10分43秒のスライド動画であり、金沢大学チャンネルを通じてYouTube上で配信され、前述の主要な常設展示物が説明のテロップとともに紹介されている。資料館展示のYouTubeによる動画配信は初めての試みであったが、新型コロナが拡大する中において一定の成果があったと考えられ、今後展覧会等のさまざまな資料館活動の広報に役立つものと期待される。

2-3 企画展 写真で見る前身校 Part I・Part II（資料館展示室）

この企画展「写真で見る前身校」は、当初前期企画展として計画され前期の途中で展示替えを行い、前半を第四高等学校、後半を金沢医科大学の写真資料を中心に展示をする予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う資料館の閉館により、展示計画が見直され、前半部分は『前期企画展「金大資料館コレクション展2020 写真で見る前身校 Part I」』として、後半部分は「学生企画展 写真で見る前身校 Part II」として開催された。ここでは、それぞれを別の展覧会として以下に紹介する。

2-3-1 前期企画展「金大資料館コレクション展2020 写真で見る前身校 Part I」

この企画展は、2020（令和2）年6月19日から10月26日にかけて開催された。当初は、4月初めから開催する予定であったが、前述の通り、新型コロナの拡大で資料館の閉館措置が取られたことにより、開催は新型コロナの第1波が収まり、全国の非常事態宣言が解除されるまで待たなければならなかった。また、入館は学内関係者に限定された。なお、コレクション展は、平成27（2015）年度から毎年開催され6回目の開催であった。今回の企画展では、前年度に寄贈された古い写真資料の中から、本学の主要な前身校の一つである第四高等学校関連の写真に、学術資料を併せて展示し、当時の学校や学生生活を知ってもらえる展示とした。金沢駅頭で八高生を迎える四高応援団やカフェでくつろぐ四高生の写真は、当時の四高生の様子をいきいきと伝えていた。展示資料の中には、初公開になる1892（明治25）年撮影の第四高等学校建設草創期の写真も含まれていた。この展示には、入館制限の中、924名の入館者があった。



図1 四高生が身につけていた羽織・袴と詰襟・マント

2-3-2 学生企画展「写真で見る前身校 Part II 『キンダイ医学の源流を辿る』」（文献2）

この展覧会は2020（令和2）年11月9日から2021（令和3）年1月20日まで開催された。学生企画展は、学芸員資格の取得を目指す学生が受講する「博物館実習」の館園実習として、企画から実際の展示まで全ての学芸員業務を学生が実践するもので、資料館では平成26（2014）年度から毎年開催されている。新型コロナの影響により、本企画展は前期企画展としての当初の展示計画の大枠のみ残して、具体的な展示計画は学生によって再検討され、準備された。タイトルにある「キンダイ」には、金沢大学（略称「金大」）における「近代」医学の歴史を辿るとの意味が込められている。この展覧会では、医学類の前身校である旧制の官立金沢医科大学および関連諸学校について、「医学系前身校の系譜」、「近代医学の発展を支えた人物」、「医学教育の起源と発展」、「医学教育が生かされた臨床現場」という四つの切り口に基づいた展示が行われた。ここでは、関連前身校の建物、人物、ならびに実際の講義風景などの古写真の他、「ドドニュース和蘭草木誌」、「解体新書」等の江戸時代から伝わる貴重本、当時の医学教材である「眼球運動模型」（図3）及び「胎児模型」などの貴重な資料も合わせて展示された。また、本展示のミュージアムツアーが、12月14日から18日の5日間5回にわたって開催され（第1回「本企画展の“目玉”！？高安右人って誰 ー眼科発展のひみつー」、第2回「キンダイ医学におけるお雇い外国人の活躍」、第3回「ドドニュースによる

精緻な植物書」、第4回「解体新書こそぞ噂話」、第5回「博士の愛したハサミ」、連日多くの学生等が参加した。このミュージアムツアーの様子を伝える動画が、YouTubeの金沢大学公式チャンネルで公表された。本展示会では、その興味深い展示やミュージアムツアーなどが人気を呼び、冬季かつ新型コロナ対応の入場制限の下で、603名もの入場者があった。



図2 学生企画展ポスターと入館者への新型コロナ対応メッセージ

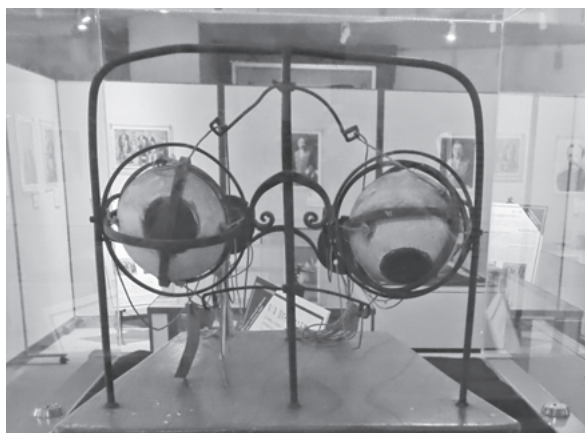


図3 眼球運動模型の展示

2-4 出張写真展「あこのころの金沢大学」(金沢城公園河北門)

出張写真展「あこのころの金沢大学」が、2020(令和2)年10月16日から11月4日にかけて、金沢城公園河北門を会場として開催された。河北門を会場にしたこの写真展は、今回で5回目となった。金沢大学の城内キャンパスの他、当時のその他のキャンパスの写真も展示し、その様子を紹介した。20日間の開催期間中に、コロナ禍にも関わらず、9,216名の入場者があった。

2-5 後期企画展「寿ぎの季(ことほぎのとき) — 『加賀藩年中行事図絵』と『儀式風俗図絵』にみる祝事(いわいごと) —」(資料館展示室)

2021(令和3)年2月3日から3月19日にかけて、後期企画展「寿ぎの季(ことほぎのとき) — 『加賀藩年中行事図絵』と『儀式風俗図絵』にみる祝事(いわいごと) —」を開催し、256名の入館者があった。明治から昭和初期にかけて活躍した金沢の浮世絵師 巖如春(いわおじょしゆん)は、藩政時代の加賀藩の儀式や庶民の暮らしを史実に忠実で精緻な図絵を描いている。本展示会では、江戸時代「祝事」として迎春・婚礼・子供の成長祈願などを描いた金沢大学附属図書館所蔵の『加賀藩年中行事図絵』と『儀式風俗図絵』を取り上げた。これらの図絵は丁寧かつ色彩豊かに描かれていて、展示室に華やかさを添えていた。



図4 後期企画展「寿ぎの季(ことほぎのとき)」ポスター

3. その他の主な活動

前章で紹介した展示活動は、資料館の主な活動の一つであるが、資料館は文書館機能も有しており、公文書の保管や閲覧などの業務も中心的な活動の一つである。以下、令和2年度の展覧会事業以外の主要な活動の概略について報告する。

3-1 公文書の保管と閲覧業務

資料館では、金沢大学及びその前身校に関する公文書の収集保管閲覧事業（アーカイブス事業）を行なっている。令和2年度の文書資料（モノ資料を含む）などに関する閲覧等の問い合わせへの対応（リファレンス）件数は19件、文書点数17点、モノ資料点数26点、その他（前身校、大学史、卒業生に関するリファレンス対応）3件であった。資料館は令和2年度末時点で、「国立公文書館等」の指定を受けていないため、貴重な大学史資料が廃棄されることを防ぐために、保存期間が満了した法人文書のうち重要な文書を選別し、資料館において現用文書として保管している。令和2年度末に新たに受け入れた公文書の総数は54ファイルであった。

3-2 資料整理

資料館には、令和2年度末の時点で88,635点の資料（非現用公文書資料11,456点 内数）が収蔵されている。令和2年度に新たに17点の資料整理が完了し、リストに追記された。

3-3 移管または寄贈された資料（文献3）

令和2年度に、移管・寄贈された資料は以下の通りであった。

移管資料

- ・「古写真フィルム（スロイス、ホルトルマン、津田淳三金沢医学館、尾山病院）」富士ミニコピーフィルム缶入り（5点）
- ・Konica I 50mm F3.5 カメラ（1点）（“Made in occupied Japan”の記載がある）
- ・旧教養部保健体育研究室コレクション一式
 - ① 実習アルバム（32点）
 - ② 竹製スキー・ストック（1組）
 - ③ 最新人体解剖掛図（2点）
- ・理工学域実験機器「化学天秤、偏光顕微鏡」（3点）
- ・理工学域実験機器「メノウ乳鉢・乳棒セット 内径90mm,120mm」（2点）
- ・医学部同窓会会員名簿等（14点）

寄贈資料

- ・錦絵「前田家繁榮之圈」（3枚組）
- ・機器類一式（9点）
- ・第四高等学校関係資料一式

3-4 授業協力

令和2年度、資料館では以下の授業等への協力を行なった。

- ・人文学類の授業「地域概論」に協力した。新型コロナウイルスへの対応のため、例年実施していた対面での概要説明や資料館見学は実施できず、スライド動画等によるオンライン教材による実施となった。
- ・学芸員養成課程の博物館実習等について、資料館特任助教ならびに副館長が授業を担当した。博物館実習の中心となる学生企画展「写真で見る前身校 Part II ―キンダイ医学の源流を辿る―」では、資料館スタッフが実習作業の指導補助を行なった。

3-5 情報発信

令和2年度に資料館では、以下の情報発信事業を行なった。

- ・『資料館だより』（第62号：2020（令和2）年7月発行、第63号：2021（令和3）年1月発行）

令和2年度の「資料館だより」の発行は、新型コロナへの対応のための職員の在宅勤務、ならびに展覧会など資料館行事の一部中止を受けて2回の発行となった。第63号には、学生企画展を担当した学生の投稿記事「学生企画展を通して感じたこと ～企画から展示まで～」が掲載された。

- ・『金沢大学資料館紀要』（第16号：2021（令和3）年3月発行）

第16号には、令和元年度の学生企画展を企画実施した学生等による報告『学生による企画展の報告「いろはー多彩な技術から見る色の世界ー」の他、「金沢大学資料館所蔵伝ベツレヘム出土のローマンランプにおける年代と類型の一考察」、『資料紹介 金沢大学附属図書館所蔵「時習寮日誌」について』、「臨時休館対応としての金沢大学資料館紹介動画作成について」、及び「平成31年・令和元年度金沢大学資料館事業報告」が掲載された。

3-6 学会等への参加

資料館では、業務に関するスタッフの知識や技術の向上などを目的として、職員の学会や研修会への参加を推進している。令和2年度は、新型コロナの感染拡大により、関係の学会や学外での会議のほとんどが中止となった。以下に中止等の対応状況も含め簡単に報告する。

- ・全国博物館館長会議

文化庁と公益財団法人日本博物館協会の主催で予定されていた令和2年度（第27回）全国博物館館長会議は、新型コロナウイルス感染拡大により中止となった。

- ・第23回大学博物館等協議会・第15回日本博物科学会 九州大学

九州大学で開催が予定されていた第23回大学博物館等協議会・第15回日本博物科学会は、新型コロナに伴う緊急事態宣言の発出およびそれに伴う九州大学の措置により中止となった。なお、第23回大学博物館等協議会館長会議および第15回日本博物科学会理事会は、2020（令和2）年6月29日にメール回議で開催され、次回第24回大学博物館等協議会・第16回日本博物科学会の開催校が琉球大学（風樹館）と決定された。また、2019年度決算及び2020年度予算等が原案通り承認され、2021年度からの役員が決定した。さらに、第23回大学博物館等協議会総会及び第15回日本博物科学会総会については、2020（令和2）年7月3日にメール回議で開催された。

- ・令和2年度石川県博物館協議会総会

令和2年度石川県博物館協議会総会は、2020（令和2）年8月6日に石川県美術館において開催され、筆者が出席した。令和元年度事業実績報告及び収支決算報告書、令和2年度事業計画及び収支予算（案）が審議、採決された他永年勤続功労者の表彰及び研究奨励事業の紹介と報告があった。

4、まとめ

令和2年度の資料館活動は、新型コロナ感染症の拡大により大きな影響を受けた。資料館展示室は年度当初から6月18日まで閉館し、6月19日に入場者を金沢大学関係者に限って開館した。その

結果、予定していた企画展の一部が中止となり、展示計画も大きく変更された。また、資料館職員も多くは在宅勤務を強いられ、資料館業務もスムーズに遂行できなかった。近年のICT（Information and Communication Technology）の進歩により、金沢大学でも新型コロナへの対応のために遠隔会議や授業が取り入れられた。しかしながら、ネットワークを通しての会議や議論には限界があり、資料館業務は手探りで進めていかなければなかった。それでも、資料館関係者や学生の努力により、展示スケジュールのスムーズな変更や常設展やワークショップの動画配信などを実施することができた。その結果、6月以降少ないながらも毎月134から386名の入館者を数えることができた。また、学生企画展については、好評であり入館者数も603名に上ったことに安堵した。

アウトリーチ展は、金沢城公園河北門で開催した写真展「あこのころの金沢大学」の1回のみであったが、9,216名の入場者があった。この数字は、新型コロナの影響下でも多くの市民や観光客の方々に、金沢大学の歴史や資料館活動の理解を広めることができたことを示している。

以上、新型コロナの影響下においても、資料館職員の努力により100%ではないが資料館活動を遂行できた経験は、令和3年度以降の資料館活動に役立つものと期待するところである。

謝辞

本稿をまとめるにあたって、金沢大学資料館の藤原真理氏から関連する情報や資料を提供いただいた、心より御礼申し上げます。

参考文献

- 1、松永 篤知、「臨時休館対応としての金沢大学資料館紹介動画作成について」、金沢大学資料館紀要、16号、85-100、2021年
- 2、古田 哲朗、大木紗英子、松永 篤知、河合 望、『学生による企画展の報告「写真で見る前身校 Part II～キンダイ医学の源流を辿る～」』、金沢大学資料館紀要、17号、1-24、2022年
- 3、金沢大学資料館、「令和2年5月～令和3年4月 移管・寄贈資料」、金沢大学資料館だより、Vol.64、4、2021年